

2 不登校を予防するための手だて

- 不登校は、多くの場合予兆を示します。その予兆を見逃さず、**登校しているうちに適切な対応**をすることが大切です。
- **欠席し始めてから3日までの対応**が、不登校の予防に効果的です。

欠席に敏感になる

- ① 欠席したその日のうちに様子を聞き、心配している気持ちを伝える → **明日の連絡とともに！その日のうちに！**
- ② 1か月の欠席日数が3日以上ある児童生徒への対応について、協議する場を設ける → **チーム対応**
- ③ 欠席者を記入する小黒板を職員室に設置する等、欠席状況を全教職員が把握できる工夫をする → **みんなで見守ろう**
- ④ 前年度までの欠席日数や理由等を把握しておく → **子ども理解を深めよう**

早期に発見し、早期に対応する

欠席した児童生徒の場合

欠席連絡を受けた場合、電話対応マニュアル（H19作成リーフレット）を参考に対応を行う。

- ① 欠席した児童生徒の情報を整理する。
- ② 必要ならば、家庭訪問の準備をする。

家庭訪問の実施

【不登校の予兆と思われる場合】

- ① チームで早急に対応等について協議する。
- ② 個人支援カード等に記録として残す。

気になる児童生徒の場合

☆不登校の予兆をチェックする

- 特定の曜日に欠席・遅刻・早退が多い
- 体調不良をよく訴える
- 最近1か月で、明らかな病欠以外の欠席が1日以上ある
- 保健室への出入りが増える
- 部活動を休みがちになる
- 表情が暗くなる
- 学習の遅れがみられる
- 友人関係でトラブルがある
- 忘れ物が多くなる
- ⋮
- ⋮
- 等

複数の項目にチェックが付く場合

- ① 観察を続け、情報収集を行う。
- ② 意識して声かけや関わりを多くする。
- ③ 保護者と連携する。